

本興寺だより

令和六年

六月

第二五八号

「今 本時の娑婆世界は 三災を離れ四劫を出でたる常住の浄土なり。仏、既に過去にも滅せず 未来にも生ぜず。」

(宗祖 観心本尊抄)

大相撲夏場所で、小結「大の里」が優勝しました。郷土出身力士としては二十五年ぶりの優勝です。能登半島地震に見舞われた被災地の人々にも、この朗報が、復興への勇気の一助となったと思います。

先日被災地の珠洲市へ行ってきました。幼い頃からの思い出の詰まっていた両親の老家や親戚の家も、地震により、皆がれきの山や荒れ果てた姿に変わっていて、涙も言葉も出ないほどでした。

震災から五か月が過ぎても、復旧・復興とはまだほど遠い現状と、大地震により一瞬にして人生を大きく狂わされた沢山の被災者がおられることを思えば、**自然災害の恐さと人間の非力さが身に沁みます。**人間は大自然のたくさんの恵みを受けて生命と生活が出来ますが、その反面、盤石と思われていた大地でさえ、覆されることがある現実を見せつけられました。

災難にも遭わなくて**当たり前**。病気も患わなくて**当たり前**。願い事も叶って**当たり前**と思つて生活して

る私達に、本当は、それらは「**当たり前のこと**」ではなく、文字通り「**有難いこと**」なのだと思付かされた気がします。

「**頑張ろう○○○○**」というスローガンをよく見かけますが、どこまでも前を見て、耐えて努力して欲しい気持ちが込められていますが、それに尽きると思いません。

自然の災難は仕方がないとしても、人生には、思い通りにならず、**何故こんなことに・・・と感ずることが多々あります。**

その理由の一つには、**人生のアウトライン(大筋)**

が、生まれてくる以前の魂のレベルであらかじめ、ある程度決められていることがあると仏様

は云われています。

そのことを「**宿命**」と云われています。



宿命と聞けば、本人の意思に関係なく背負わされたと感じますが、本人の自由意思で選んだものだと言われます。

宿命とは、過去の償いの意味合いではなく、己の魂が向上するために、経験や体験すべき内容をあらかじめ決めておくことがあるのだということです。私達には、にわかには信じ難くても、それが真実であるのだと。

人生の大筋が、決められているものがあるとすれば生きる意味はあるのか?と思うかもしれませんが、そうではないのだと云われます。

出会わなければならない体験があったとしても、そ

の体験をどのように受け入れ、対応するかは本人次第なのです。例え理不尽と思われる出来事に対しても、

魂のレベルでは、成長するために必要な体験なのだと信じて対応すれば、心の大きな成長の糧となり、運勢が明るく開かれてくるのです。

運命とは、宿命の土台の上に自分の努力を加え、開わり合う人々の支えを頂き、また見えざる影の力のお蔭を頂き、より良く切り開いていけるのだということです。

私達の住む世界は「**娑婆**」(しゃば)と云われます。

「**忍ぶ**」意味があります。ここに住む人々は、心の内に様々な煩惱があり、外には、火災・風災・水災・地震・寒暑等があり、苦悩を耐え忍ばねばならぬからこの名がつけられています。

日蓮聖人は、冒頭の文のように、「この世は常住の浄土である」と云われています。「仏、過去にも滅せず未来にも生ぜず」とは、**仏様に限ったものではなく、存在する物全ての命は、実は滅することもあることも生ずることもなく永久に存在しているのだ**ということなのです。

法華経の寿量品第十六にも、「**生死の若しは退、若しは出あることなく、また在世及び滅度の者なし**」とあります。

この意味は、見かけ上の生死は妄想によるものであり、生も死も真実ではないということです。

仏様は、諸法の実相(宇宙のありのままの姿、命の存在の仕組みなど)を知ることが、人生の苦を和らげ、

解消することにつながるのだと云われます。

自然界を支配している摂理には、命あるものには「**生老病死**」があります。人間以外の生物はそれを取りのままに受け入れています。

人間だけがなぜそれを**苦と感ずるのか?それは、「生老病死」そのものが本当は苦なのではなく、それを苦だと認識する信念によるのです。**生老病死があるのはわかっていますが、自分には、老も病も死もあつてはならないと思つているのです。それは不幸なことであるという信念と価値観を無意識に持つているのです。その考えが苦悩を増やすのだと云われます。

昔からこの国でも、**不老長寿の薬**を求めて探し回

る話があります。人間の願望でもあります。人の細胞は六十兆個あると云われますが、皆、新陳代謝をし、老化して寿命が来れば死んでいきます。

老化しない、永久に死なない細胞が人間が求めてやまない夢のような細胞ですが、それがただ一つあり、**癌細胞**だというのが皮肉なことです。

それを抑え免疫を強くするのが老化する通常の細胞だということです。

人間も素直に生老病死を受け入れて、苦を離れて生きなさいというメッセージでもある気がします。

身体で体験する苦悩は、心にも直結します。豊かな人生を送るには、物事を、正邪や善悪だけで色分けして苦を増やさず、心の中には四苦(生老病死)を持ち込まない生き方が大事だと説かれています。

